

【古典文法 助動詞「に」識別①】

問、次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- ① そのことに候ふ。さがなき童べどものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。(徒然草)
- ② その後物の具脱ぎ捨て、東国の方へ落ちぞ行く。手塚太郎討死す。手塚別当落ちにけり。(平家物語)
- ③ それにぞあなるとは聞けど、あひ見るべきにもあらでなむありける。(伊勢物語)
- ④ 言ひ使ふ者にもあらざなり。これぞ、たたはしきやうにて、馬のはなむけしたる。(土佐日記)
- ⑤ 梓弓引けど引かねど昔より心は君によりにしものを(伊勢物語)
- ⑥ 十文字にかけわつて、うしろへつと出でたれば、五十騎ばかりになりけり。(平家物語)
- ⑦ いかに思ひ始めけることに、か、世の中に物語といふものあなるを、(更級日記)
- ⑧ な起こしたてまつりそ。をさなき人は、寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、(宇治拾遺物語)
- ⑨ いとうつくしう、生ひなりにけり。」など、あはれがり、めづらしがりて、帰るに、(更級日記)
- ⑩ 冬はつとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。霜のいと白きも、(枕草子)
- ⑪ またの年の春ぞ、まことにこの世のほか聞き果てにし。そのほどのことは、(建礼門院右京大夫集)
- ⑫ 守柄にやあらむ、国人の心の常として、「今は。」とて見えざるを、(土佐日記)
- ⑬ 心にもあらず御覧じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありければ、(大鏡)
- ⑭ そのことと候はでは、なれなれしきさまにやと、つつましう候ふうちに、(和泉式部日記)
- ⑮ 男どもの親も来にけり。この女の塚のかたはらに、また塚どもつくりて掘埋む時に、(大和物語)

⑪	⑥	①
⑫	⑦	②
⑬	⑧	③
⑭	⑨	④
⑮	⑩	⑤

【古典文法 助動詞「に」識別①】 解答

問、次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- ① そのことに候ふ。さがなき童べどものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。(徒然草)
- ② その後物の具脱ぎ捨て、東国の方へ落ちぞ行く。手塚太郎討死す。手塚別当落ちにけり。(平家物語)
- ③ それにぞあなるとは聞けど、あひ見るべきにもあらでなむありける。(伊勢物語)
- ④ 言ひ使ふ者にもあらざなり。これぞ、たたはしきやうにて、馬のはなむけしたる。(土佐日記)
- ⑤ 梓弓引けど引かねど昔より心は君によりにしものを(伊勢物語)
- ⑥ 十文字にかけわつて、うしろへつと出でたれば、五十騎ばかりになりけり。(平家物語)。
- ⑦ いかに思ひ始めけることに、か、世の中に物語といふもののあるを、(更級日記)
- ⑧ な起こしたてまつりそ。をさなき人は、寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、(宇治拾遺物語)
- ⑨ いとうつくしう、生ひなりにけり。」など、あはれがり、めづらしがりて、帰るに、(更級日記)
- ⑩ 冬はつとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。霜のいと白きも、(枕草子)
- ⑪ またの年の春ぞ、まことにこの世のほか聞き果てにし。そのほどのことは、(建礼門院右京大夫集)
- ⑫ 守柄にやあらむ、国人の心の常として、「今は。」とて見えざるを、(土佐日記)
- ⑬ 心にもあらず御覧じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありければ、(大鏡)
- ⑭ そのことと候はでは、なれなれしきさまにやと、つつましう候ふうちに、(和泉式部日記)
- ⑮ 男どもの親も来にけり。この女の塚のかたはらに、また塚どもつくりて掘埋む時に、(大和物語)

① 断定	② 完了	③ 断定	④ 断定	⑤ 完了
⑥ 完了	⑦ 断定	⑧ 完了	⑨ 完了	⑩ 断定
⑪ 完了	⑫ 断定	⑬ 断定	⑭ 断定	⑮ 完了